

令和4年2月1日



学校だより

東京都立石神井特別支援学校

自分にチャレンジ

副校長 小川 達夫

立春は、暦の上では、春の始まりを告げる日ですが、まだまだ寒い日が続いております。都内では、オミクロン株による感染者数が増大しており、これまで以上に感染予防対策が必要な状況です。学校でもより一層緊張感をもって、感染拡大防止に取り組んでまいります。

さて、2月4日からは冬季オリンピックが北京で開催されますが、昨年、日本で行われた東京2020オリンピック・パラリンピック大会は、まだ、記憶に新しく、選手の活躍ぶりが私たちの胸に刻まれています。

先日、本校で、令和3年度オリンピック・パラリンピック教育推進事業「夢・未来プロジェクト」を開催しました。「自分にチャレンジプログラム」として、東京パラリンピックで走り幅跳びと100mの陸上競技に出場した高田千明さんを学校にお招きし、直接アスリートの方と交流をしました。

高田さんは、先天性の弱視ながら走ることが好きで、陸上の選手として健常者の大会にも参加していたそうです。高校3年生の時に全盲となり、21歳で視覚障害者陸上競技を本格的に始め、世界パラ陸上ロンドン大会では、日本新記録で銀メダルを獲得されました。

当日の講演会では、子供たちからの質問に、高田さんにお答えいただきました。「走り幅跳びで着地点が見えない中で跳ぶのは、怖くないですか」という質問に対し、高田さんは、「見えない中で跳ぶのは怖いです。怪我をする可能性もあります。それでも金メダルを取りたいという強い思いをもって毎日練習しています。」と子供たちに目標をもってやり続けることの大切さをわかりやすくお話をしてくださいました。

その後、伴走者と一緒に走る姿を見せていただき、続いて、教員と子供が、きずなと呼ばれる輪になった紐を互いに持ち、アイマスクを付けた子供が、伴走者の教員と共に歩いたり、走ったりする体験をしました。

最後に高田さんから「何事にもチャレンジすることが大切で、様々なことに興味をもって体験し、その中で好きなことを見つけて頑張る続け、将来は是非パラリンピックに出てください。」と子供たちへの応援メッセージをいただきました。

事後学習では、「アイマスクをしてみて、見えないことが怖かった。」「見えなくても走れるのがすごい。」「お話を聞いて、自分もやりたいことに向かってがんばっていきたいと思いました。」などの感想が子供たちから寄せられ、この経験を通して、子供たちは、何事にもチャレンジし、頑張る続けることの大切さ等を学んだことが窺えました。今後も、子供たちの興味・関心や可能性を広げるため、様々な学習活動に取り組んでまいります。